

障害福祉計画の平成 26 年度実績について

【委員】地域活動支援センターは現在、京田辺市にない。経過を事務局から説明した方が良いのではないか。

（事務局）今年 5 月までは、地域活動支援センターがさんさん山城内にあったが、京都府立の聴覚言語障害センターが城陽市に設置されたことを受け、今年 5 月に地域活動支援センターも移転したため、現在京田辺市にはない。

【委員】事務局から説明があったように、京田辺市に地活センターがない。設置が必要だと思う。中学までは引きこもりの把握ができるが、卒業すると把握できなくなる。働きたいと思っている子もいる。60 歳以上の高齢者や知的に障がいがある人の場合は B 型で訓練するのか。どこに行くのか。

【委員長】入口の問題である。表にカミングアウトしたくないとかあると思うが、気づいて、見つけて、どうつながかが大切である。就労も含めた社会参加が必要である。開かれた窓口、システムを計画に根底として組み込む必要がある。

【委員】どこで救うのか検討の必要性がある。

発達の遅れや知的に障がいもないが、生きにくさがある。障害者だからといって、サービスを入れるのもおかしいと感じる。地活センターには力を入れて欲しい。

【委員長】啓発活動の必要がある。紙だけではなく、安定的な情報発信が必要である。ある自治体で計画をばらまいたが、逆にゴミが増えたことがあった。IT やハイテクなどによる情報発信が良いと思う。また、発信した中身をどう処理するのか。昔はアンケート調査で一方的に質問に答えるだけで、個別の言いたいことが拾えないものだった。本音を聞き出す方法として、エピソード手法というものがある。

現在、難聴者等が情報を得る方法として、音を文字に変換するシステムがあり、価格は 5 ～ 60 万である。高齢、子育てなどの委員会議事録を録音する必要がない。音声認識で誰が発言しているかすぐに分かる。とても精度が高い。私個人でも買おうと思っている。言い分をみんなできちんと共有でき、論理的にまとめる方法も発達している。新しい方法を取り入れて計画を実行するプロセスにのせてほしいが、予算もあることなので。高齢の委員もしているが、共

通の課題であると考えている。話をパソコン1台で安く情報発信できる。フリーソフトで大量にコピーできる。

【委員】先日、民生委員さんが私の事業所の見学に来られ、有り難かった。一番困っていることは、気づいたがどうするのが気がかりとのこと。とりあえず、ふらっとやりあん、社協のどこかへ連絡すればつながるようなものがあれば良い。今日明日の問題。ここへ電話すればすぐに救える、相談できるというところが必要である。

【委員長】気づき、発見、つながりが必要である。

【委員】良い研修だった。施設で知らない所を知ることができて良かった。高齢者も含めて、信頼関係を築いて活動している。教えてもらえないことで漏れている。情報を一切もらえていない。気になる人がいれば支援センターにつなぐという基本ができてないことが反省である。民生委員138名がどうしていくのか。声をあげてほしい。それに対応させてもらいたい。

障がいを持っている方と、例えば道を歩いている時に話しができれば、また違ってくるのではないかと思う。それをつかめていないのが現状である。障害者団体の会長にも伝えているが、そういうことが分かれば、耳が聞こえない人には大きな声で話すこともできる。

【委員】障がいのある方は常に受け身である。自分から「助けて」「しんどい」と言うように言っている。言ってもらわないと手をさしのべられない。地域に居るなら、隣の人に言うこと、発信することが大切である。

私の事業所は府南部がサービス提供範囲だが、京田辺市が人口規模的にもちようど良く、やりやすい。他市は人口規模が多すぎたり、少なすぎる。

この計画が他地域にも広まれば良いと思う。10年後、障害者の受け取る工賃が減らされると思う。府にも言っているが、事業所の報酬は生かさず、殺さずのラインである。

また、支援学校卒業後の行き場がない。卒業生は増加の一途で、親が精神疾患の方の場合も多い。相談支援は、ふらっともりあんもいっぱいっばいで、真剣に取り組む必要がある。国もお金がないし、保護者も障害年金があるから働かないではなく、考える必要がある。福祉施設ではなく、地域で働く。事業所もハローワークなど常に関係機関と連携がとれるようにしたい。

【委員長】重要な障害者問題の根幹に関わることを課題として出してもらった。みんなで共有できるメディア、形にしないといけない。1回で終わらず、改訂する。

I C Tの技術を使えば、話したことを音声や文字、英語にできる。

先日、高齢の計画で認知症に関するDVDを差し上げた。シナリオを作っ
て分かるように共有化していきたい。

事務局、計画の中に啓発、発信を入れられないのか。

(事務局) 計画P 6 4に取り組むべきと載せている。子育ての方でもうまく行ってい
ないと聞く。障害でも課題として認識している。今回すぐには無理だが、十分、
検討の対象としていきたい。

【委 員】 計画相談の実施率が9 0 %ということだが、1 0 0 %にはできないのか。地
活センターも移転し、相談の窓口はあるのか。

(事務局) 計画相談については、ご自身で作成するセルフプランでも可能である。また、
事業所の案内もしている。

【委 員】 計画相談は1 件1 万円程度で、ヒアリング、計画案作成、担当者会議、支給
量の決定、モニタリングの流れで業務量が多い。児童については、ふらっとと
りあんでも多数の計画を作成しているが、ふらっとは市の委託機関で難ケース
や委託の業務もあるので大変である。相談支援事業所も増えていない。親の言
いなりで計画を作成し、支給量が膨大になるので、スキルのある相談員も必要
となる。一人当たり9 0 人分を作成する必要がある、丁寧にすると、2, 3時
間かかるので、1 日1 ~ 2 人程度しか作成できない。ある他市はすべてセルフ
プランにしてしまい、支給量が膨大になっている。実施率9 0 %でも優秀な方
である。他はひどい。他市については電話1 本で支給決定をしているような状
況である。

【委員長】 施策の枠があるのだろうと思うが、今はマネジメントではなくファシリテー
ションではないか。

事務局、今後のスケジュールは。

(事務局) 基本計画は6 年、福祉計画は3 年であるが、進捗の報告を毎年度にして意見
をもらい、次期の計画につなげたい。

【委員長】 モニタリングで意見集約をして、次の計画に生かせるようにしたい。

【委 員】 計画のP 6 9にスポーツ活動の振興が載っているが、スポーツ大会をする所
がない。先日、フットサル大会を開催したところだが、経済的な理由でスポー
ツに参加できない子や発達障がいの子のためのスポーツや芸術も含めた居場所
作りをしたい。

薪小の体育館が夕方から開放するという話を聞いたが、行政側から一押し

できないか。K D S Cとも連携して障害者枠を作っていることや、17時半から19時は体育館が空いていると非公式だが校長先生から聞いたので検討して欲しい。

(事務局) すぐには答えられないが、計画は3年6年の区切りで進行形のものである。後援をするなど、場所の支援についても検討課題としたい。

【委員】 基幹相談支援センターが平成28年度に「有」となっているが、現時点の状況はどうなっているのか。来年度なので、予算も上げ進んでいるのではないかと思う。課題に対して、今後どうしていくのかも大事なところである。また、周知も大事だと思う。

(事務局) 平成28年度の設置に向けて、他市町の調査や場所の見学も行い、進めているところである。

【委員】 市が設置ということか。

(事務局) そのとおり。

【委員】 どこかに委託か。

【委員】 平成28年度に設置であれば、委託か直営か具体化が早急に必要である。

【委員長】 計画は変更できるのか。行政の予算もあると思うが、実情とのマッチングも必要でモニタリングが大切である。

【委員】 スポーツのことだが、毎年サマースクールをしているが場所がないので、プールは南山城支援学校を借りている。以前地域の学校は問題となり、使えなくなった。是非、京田辺市の小学校のプールを使わせて欲しい。

【委員】 防災のことだが、三山木の人の避難場所は同志社国際である。坂道であり、自閉のきつい子には行けない。実際に大雨で緑の風作業所の人々が避難する時に大変だったと聞いた。高齢や障害の人で、ボタンを押せば救急車が呼べるというシステムがあるとのことだが、重心児の家庭で使えたらと思う。

(事務局) 1人暮らしの人で緊急通報装置を使える。使えるかどうか基準がある。

【委員】 後で相談に行く。

【委員】 資料2のP2にグループホームが必要な人も増えているので、計画で重点的に考えて欲しい。関係機関との調整とは具体的にどういうことか。

(事務局) 建設予定の事業所への支援と京田辺市でサービス提供したい事業所にグループホームをお願いしているところである。